

# いばらき建設技術研究会・橋梁点検分科 第2回研究会議事録

平成17年12月19日(月) 13時35分～15時20分

於:茨城県建設技術研究センター 第2研修室

進行係:園部武正(事務局)

## 1. あいさつ・・・横山功一教授(大学G)

今回の研究会には、県の土木事務所からも参加してもらっているの、土木事務所や皆様からのアイデア・意見をぜひいただきたい。

茨城県の平成3年度の点検橋梁数は681あり、損傷大・損傷小・損傷なしに分類した場合、損傷なしは全体の約18%である。分科会での成果としては、簡易点検でこの18%は見つきたい。

今後は、簡易点検の定着、詳細点検法の定着、効果的な維持管理技術の開発を行っていく。

## 2. 橋梁点検分科会活動経過報告・・・豊島信拓(自治体G)

(1)「橋梁点検分科会の活動目的」誰にでもできる橋梁点検。誰がどう記録更新するのか。どういうシステム・フォーマットがよいのか。データベースはどうしたらできるか。

(2)「橋梁点検カルテ」は簡単な研修を行うことで誰もが「見た目」で判断でき、同じレベルでの診断ができ、継続でき、お金、時間をかけずにできることが必要。

## 3. 橋梁点検カルテの提案について

(1)「橋梁点検シート 案 1」・・・加賀豊文(鋼橋G)

県の平成3年度の点検項目16項目に分け、パトロール員が状況観察・報告を記入し、監督員が判定・評価を行う。

(2)「コンクリート橋の通常点検 案-3、案-3-1」「橋梁観察シート 案 4」・・・

1)案 3 損傷度を3項目に分け、ある程度土木を知っている者なら点検できるようにする。

2)案-3-1 損傷の有無の2項目だけなので、パトロール員は判断しやすい。

3)案 4 埼玉県版

これらの点検シートについては、実際に適用して修正しながら最適な様式を決めていくのがよい。

(3)・・・豊島信拓(自治体G)

1)点検カルテについて、4つの案の点検カルテを1つにまとめていけないか。

2)判定区分はH3の県土木部の区分を基準に判定区分、健全度点数を決めた。

3)長野県の「橋梁メンテナンス技術研究会」の例を参考にする。

(4)・・・原田隆郎(大学G)

1)平成3年度橋梁点検について水戸土木管内の結果を分析した結果を報告。点検箇所ごとの傾向を把握する。検査ポイントを押さえる。点検できなかった箇所を記録する。

2)点検する橋梁の状況を踏まえて事前に点検シートを出力して持参する。(橋齢、環境、直近の点検結果など)

点検者が現場で判断に迷わず、負担を感じずに点検できるようにする。(有無のみ、点検順序を考慮)

応急処置の必要な橋、また詳細点検を行う必要のある橋、等の視点で健全性を判定する。点検できなかった項目、分からない項目も重視して記録する。

3)点検後、健全度を多面的に判定する。個別の健全性としては次の4項目に着目  
通行安全、構造安全、耐久性、清掃、維持。

(5)データベース・・・豊島信拓(自治体G)

Microsoft Excelのマクロを活用、メニューページから各ページへ。写真ファイルも作成。各点検者(土木事務所)が入力・修正等を行い、県の道路維持課等がシステムを統括する。ただし、システム運用については分科会も関わりを持つようにするのがよい。

## 4. 今後の活動計画・・・豊島信拓(自治体G)

(1)研究成果の実践活動を行う。- 对各土木事務所を中心に(2)茨城県土木部道路維持課との意見交換。(3)県土木部道路維持課が進める点検方式への協力。(4)研究成果の取りまとめ、発表。(5)他県の橋梁点検研究会との交流。

## 5. 質疑応答

(1)意見 田辺哲成(鋼橋G)

実際の経験を踏まえて点検カルテの作成をしてほしい。パトロール員の負担にならないように。見落としなどを強調するとパトロール員が精神的に負担を感じてしまう。

意見 原田隆郎(大学G)

損傷の見当たらなかった項目で大事な項目もある。負担にならないようにするのは大切。どのくらいのサイクルでまわすか。(例、1日3、4橋など) 2次的なものに回せる情報もある。見えない、わからない項目も大切。

(2)質問 住谷優友(竜ヶ崎、自治体G)

データベースの入力の仕方について、入力のしやすさの工夫がほしい。

回答 豊島信拓(自治体G)

パトロール員にプレッシャーを与えないように。点検シートからデータベースへのアップを行う。長く継続させることが大切。

〔入力方法〕メニューリストからボタンで入力。(錯誤のないように)専門職へ委託する方法の検討も必要。

〔点検表〕1橋いくらでできるのか、産官学のこの会で詰めていく。内容は、損傷のある橋をスクリーニングできる程度の点検とする。

- (3) 意見 横山功一教授(大学G)  
今回の点検カルテ案は分科会で考えたものなので、ユーザーの皆さんからのアイデア、意見によって一番使いやすいものにしたい。
- (4) 意見 鹿内秀樹(銚田、自治体G)  
点検カルテの項目、有無の選択、ランク付などに工夫がいる。
- (5) 意見 (境土木、自治体G)  
緊急時の点検にシートがあれば良い。  
質問 深津賢次(PCG)  
緊急時の点検はどういうシステムで行っているのか。  
回答 (境土木、自治体G)  
震度4以上の地震があった際、目視で行う。  
質問 深津賢次(PCG)  
車は通行させながら行うのか。  
回答 (境土木、自治体G)  
通行させながら行う。
- (6) 意見 古内宏(土木部、自治体G)  
1)使いやすさを主眼にする。点検の注目する箇所を絞るのも1つの手。  
2)何人かの人で同じ橋を見て同じ結果が出るかどうか。
- (7) 意見 横山功一教授(大学G)  
使いやすさとは何か、Yes、Noだけでは今後使うデータとして不足するのではないか、専門家にとっては、どの程度の点検結果であれば後で使うことができるか提案してほしい。

記録者:竹井悟(自治体G)